



奈良の大仏のルーツを知っていますか - 智識寺・河内大仏について -

田中清隆（社会科）



柏原市役所を経てリビエールホールを右にまがり、JR近鉄の上の橋を渡り切った直ぐ右の所にある、「米屋」さんの前の道を右に曲がって、約200m山側に行ったところ（大阪府柏原市太平寺2-19-13）に石（いわ）神社があります。

石神社は、式内社（延喜式に記載された神社）で、太平寺の小高い丘陵の山腹にあり、石段を登ったところに社殿があります。祭神は欽明天皇の石姫皇后です。境内には巨大な楠（周囲約6m、高さ約16m以上、樹齢は700～800年と推定され、府の指定天然記念物）があります。

境内には、奈良時代の名刹であった智識寺の東塔の礎石（府の文化財に指定）があります。この、礎石は明治4年に近くから移動されてものですが、この神社付近には、奈良時代から室町時代ごろまで、河内六大寺の一つの智識（ちしき）寺がありました。

「続日本紀」の巻第十七、孝謙天皇の条に「辰年河内国大県郡の智識寺に坐（いま）す盧舎那仏を礼み奉りて、則ち朕も造り奉らむ・・・」という有名な記述があります。訪れた聖武天皇（701-756, 在位724-749）が智識寺の大仏（河内大仏といいます）を拝して感激し、大仏造営（752年開眼供養）の発願（740年）のきっかけとなりました。

智識寺の「智識」とは、仏縁を結ばせる物や人のことであり、人々の協力を意味します。つまり智識寺はひとりの有力な豪族が建てた氏寺ではなく、名もなき庶民までもが、分に応じて金品や労力を出し合って奉仕によって建てられた民衆の寺でした。

政変や、天災、病気の流行で社会不安が広がっていた当時、民衆の力を結集した大仏（盧舎那仏、当時日本最大）は見て聖武天皇に感銘を与えたと思われます。

聖武天皇は奈良の都で政務を執り行っていました。副首都とも言うべき難波の宮（大阪

城の直ぐ南の場所)へよく行かれたようです。お供を入れて数百人の集団が移動しました。

今の25号線を通り、朱塗りの「河内大橋」(正確な場所は不明です)を渡り、竜田の方へでられました。天皇は輿に乗っておられたようです。智識寺の近くには天皇の宿舎(智識寺南行宮)があり、ここで宿泊しながら、聖武天皇一行は河内六大寺(南から、鳥坂寺、家原寺、智識寺、山下寺、大里寺、三宅寺)に参拝されました。

また、智識寺へは、病気が重くなった聖武上皇の病氣平癒の祈願に光明皇后、孝謙天皇(718-770、在位749-758、称徳天皇として764-770)が智識寺を初め六寺巡拝に来られたが、上皇は756年亡くなられた。このように、智識寺は特別な意味を持つ寺でした。また、智識寺において更にもう一躯の仏像が造立されたことがわかります。「僧綱補任」には天平勝宝七年(755)二月十日に河内智識寺の観音菩薩像が完成した旨が記されている。また「扶桑略記」の記事によって塑像であったと思われます。

残念ながら1086年6月に智識寺は倒壊し、中の大仏碎けてしまい(観音菩薩像は?)、幻の河内大仏となってしまいました。

智識寺は、どこに、どんな形で、大仏や観音菩薩像はどんなすがただったのでしょうか。復元を始めてみました

復元を始めるに当たって(日本史の授業用のものです)

1 智識寺はどこにあったか。

智識寺の東の塔の礎石が石神社の境内にある。(明治期に移動されている)

石神社の中の案内版を調べよう。

文献を調べて見よう。

(「続日本記」、「柏原市史」(柏原市の図書館)、「智識寺」(歴史資料館で入手) (柏原市太平寺地区)

2 智識寺はいつ頃建てられたか。

・発掘調査のデータに基づいて推定された文献で探す。「河内六寺」(歴史資料館で入手)(瓦の編年から) (7世紀後半から8世紀に整備)

2 智識寺の伽藍の配置は?伽藍の規模は

土地につけられた名前(地積図の名前)

村絵図(寛政2年)が入手できれば

昭和55年の発掘調査。(辺16.8mの塔の基壇を確認)

石神社の礎石を調べる。(舍利孔が無い。西塔に礎石にある?)

礎石の柱穴の大きさから、塔の高さを推定する。(高さ約50m)

(東西2つの塔をもつ薬師寺式の伽藍配置)

3 智識寺の大仏の大きさ、素材

大きさを推定出来る資料を探す。(970年に源為憲が編述した「口遊」で当時の巨大仏像が「和太、河二、近三」と並べられている。東大寺大仏、河内大仏、近江関寺大仏

の順)

大仏の基準(通常、仏像の大きさの最大は丈六仏といい、それ以上の大きさの仏像を大仏と呼びます。これは仏様の身長が1丈6尺(4.8メートル)あったという伝説から。ただし、座像の場合、1丈6尺の半分の8尺(2.4メートル)というのが丈六仏の座高です。従って座像の場合、2.4メートル以上の座高があれば大仏とみなされます。)

「扶桑略記」の記事から、河内大仏は塑像であったと思われます。六丈は観音立像で河内、大仏の大きさではない。

聖武天皇を「感激」させた仏像、聖武上皇の病氣平癒を祈願した観音立像とは？

(塑像や乾漆の観音仏像は傑作が多い：法華堂の日光・月光菩薩、四天王、新薬師寺の十二神将など。十一面観音菩薩立像の傑作：聖林寺の十一面観音像)

5 なぜ、智識寺は崩壊したのか、そして再建されなかったのか

智識寺を支えた智識集団はどうなったか。

政治の中核との関係から考えてみよう。

<参考> 手書きのイラストが不得手ですので、CGソフトを使用して描いてみました。

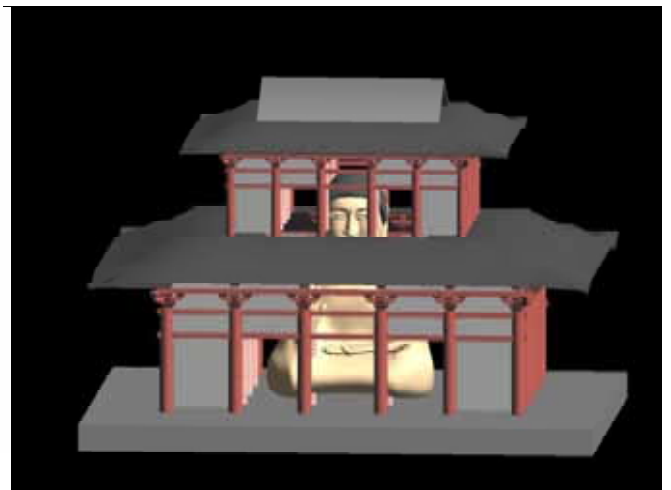
使用したソフトは、メタセコイア(<http://www.metaseq.net/>からダウンロードできます。フリーでも使用できます)です。

仏像を描く上で参考にしたのは、唐招提寺の天平時代の盧舎那仏の他、塑像の岡寺の大仏も同年代のものだと思われるので参考にしてみました。ただし、未完成です(果たして完成するのかな?)

生徒達に、この仏像をきっかけとして、もっと「河内大仏」の本質にせまる仏像を描いてくれることを期待しています。



顔だけ!? 眉は?
螺髪が描けていませんネ



建物が小さすぎ!
窮屈そう!